

第一章

第二章

1	物語（場面の読み取り）……………	4	5	7
2	物語（心情の読み取り）……………	8	9	11
3	物語（主題の読み取り）……………	12	13	15
4	説明文（指示語）……………	16	17	19
5	説明文（接続語）……………	20	21	23
6	説明文（文章の要点）……………	24	25	27
7	詩（心情の読み取り）……………	28	29	31
8	ことばのきまり（かなづかい／国語辞典の使い方）……………	32	33	35
9	ことばの知識（ギ音語・ギ態語／物の数え方）……………	36	37	39
10	漢字の知識（漢字の成り立ち／送りがな）……………	40	41	43
11	随筆（事実と意見）……………	44	45	47
12	随筆（細部の読み取り）……………	48	49	51
13	随筆（主題の読み取り）……………	52	53	55
14	論説文（段落の要点）……………	56	57	59
15	論説文（文章の構成）……………	60	61	63
16	論説文（主張の読み取り）……………	64	65	67
17	詩（主題の読み取り）……………	68	69	71
18	ことばのきまり（係り受け）……………	72	73	75
19	ことばの知識（熟語の組み立て）……………	76	77	79
20	漢字の知識（漢和辞典の使い方）……………	80	81	83

第三章

21 物語（練成問題）

84  
〜  
87

22 物語（練成問題）

88  
〜  
91

23 物語（練成問題）

92  
〜  
95

24 説明文（練成問題）

96  
〜  
99

25 説明文（練成問題）

100  
〜  
103

26 説明文（練成問題）

104  
〜  
107

27 詩（練成問題）

108  
〜  
111

28 ことばのきまり（指示語／接続語）

112  
〜  
115

29 ことばの知識（ことばの使い分け）

116  
〜  
119

30 漢字の知識（音読みと訓読み）

120  
〜  
123

第四章

31 随筆（発展問題）

124  
〜  
127

32 随筆（発展問題）

128  
〜  
131

33 随筆（発展問題）

132  
〜  
135

34 論説文（発展問題）

136  
〜  
139

35 論説文（発展問題）

140  
〜  
143

36 論説文（発展問題）

144  
〜  
147

37 詩（発展問題）

148  
〜  
151

38 ことばのきまり（ことばの種類）

152  
〜  
155

39 ことばの知識（和語・漢語・外来語／複合語）

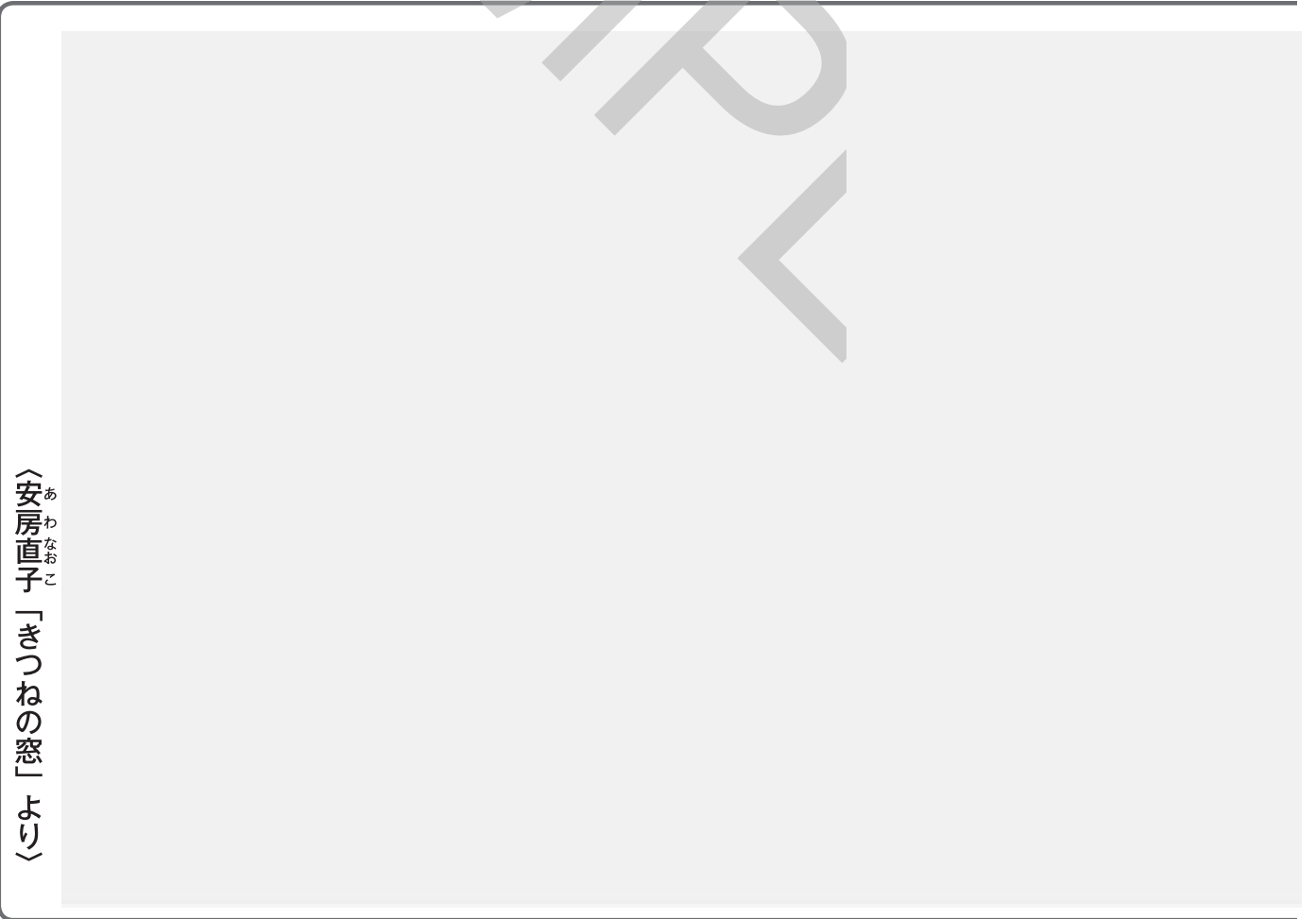
156  
〜  
159

40 漢字の知識（漢字の部首／同じ読み方の漢字）

160  
〜  
163

例題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈安房直子〉きつねの窓「おじい」

- (1) ———線①「山で道にまよったときの話です」とありますが、このときの様子について、次の問いに答えなさい。
- ①「ぼく」は、どこを歩いていたのでか。本文中から七字で書きぬいて答えなさい。


- ② そのとき、「ぼく」は、どんな様子でしたか。本文中から八字で書きぬいて答えなさい。


**考え方**

物語を読むときは、いつでもまず、「いつ」「どこで」「だれが」をおさえることが大切です。ここでは、「ぼく」は、まよったりするはずのないところを歩いています。でも、少しつかれていたか、もしくは何か気にかかることがあったのかもしれませんが、あまりまわりの景色に目をやっ  
てはいなかったようです。このことがわかっていると、そのあと、ききょう畑を発見して、はっとする様子を、よりあざやかに読み取っていくことができます。

- (2) 本文中に二つずつある ※・\* には、それぞれ、色の名前が入ります。その色を本文中から見つけて、漢字一字で書きなさい。

*	
※	

**考え方** その物語の特徴的な表現を見つけるのも、場面を思いえがいていくうえで、重要な方法です。この物語は、二つの色が、効果的に使われています。色のほか、物語によって、においだったり、登場人物の表情だったりします。ひととおり文章に目を通したら、目を閉じて、印象に残っているものは何かを考えてみて、それからもう一度読み直すとよいでしょう。

- (3) ———線②「青いききょうの花畑なのでした」とありますが、ぐくわしたときような畑の美しさは、どのように表現されていますか。あてはまる表現を本文中からひと続きの二文でさがし、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。(句読点も字数に数えます)


- (4) ———線③「昼の月を見うしなったような感じ」とありますが、この説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 本来は見えるはずのないものが消えて、ほっとした感じ。  
 イ ぼんやりと見えていたものが見えなくなって、不思議な感じ。  
 ウ ひかえめに見せてくれていたものが消えて、さびしい感じ。  
 エ 急にまわりが暗くなってしまう、不安な感じ。

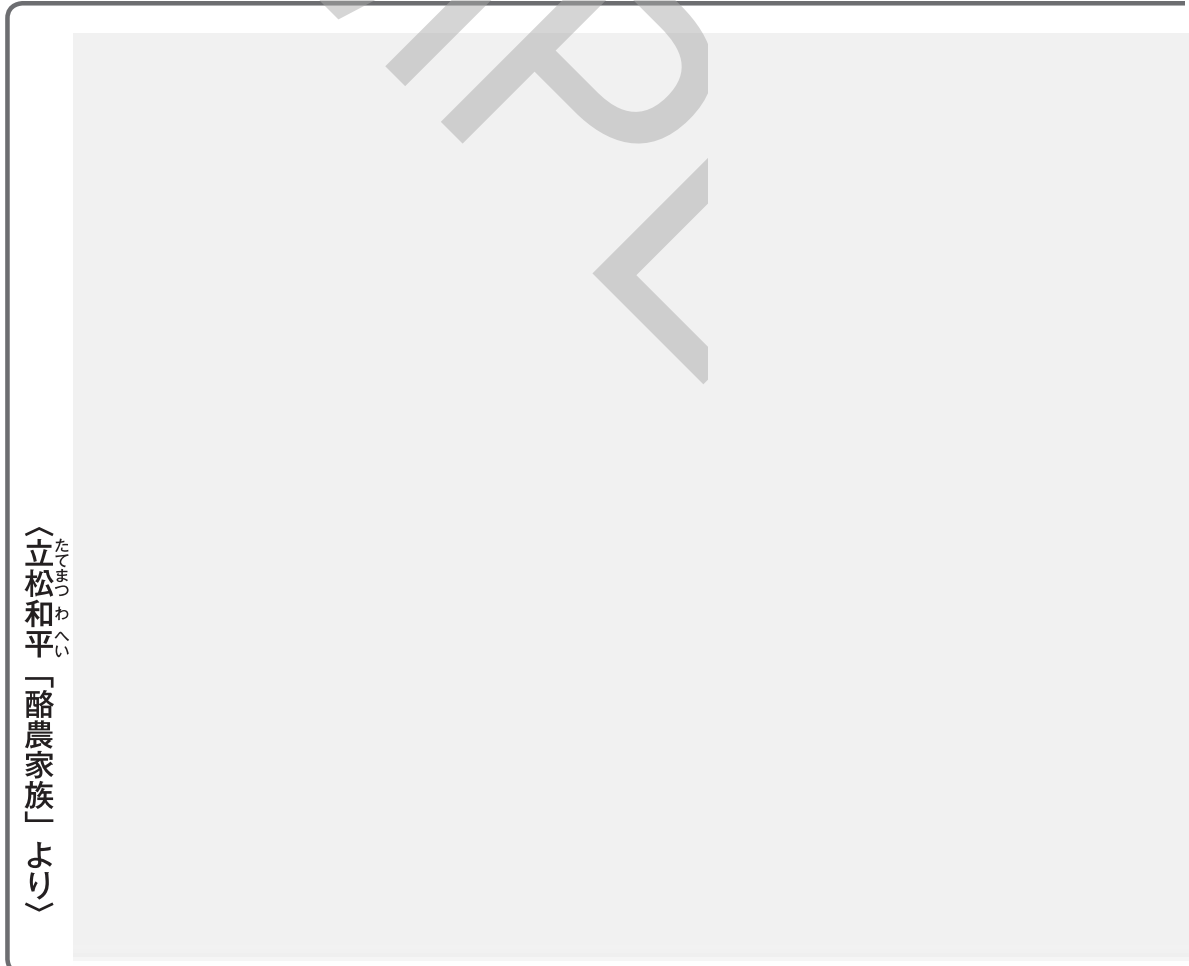
--

**考え方**

物語では、場面の様子を表す表現に、作者の思いや登場人物の気持が重ね合わされていることがよくあります。「うれしい」「悲しい」などといった直接的な表現はあまり見られず、ちがういい方で、よりくわしく表現されていますので、気をつけて読んでいきましょう。

人間は、あまりに美しいものにあったり、あまりに幸せだったりすると、かえってこわくなったり不安になったりすることがあります。「ゆめなのかもしれない」とか「この反動で悪いこともあるにちがいない」とか「なにかに化かされているのかもしれない」などと思うのです。それほどの美しさとはどんなものなのか、想像してみましょ。

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈たてまつわへい 立松和平「酪農家族」より〉

■ (1) ———線①「ネコタからも、友達になりたいという気持ちが大地に伝わってきた」とありますが、ネコタが大地と友達になりたいと思っていることが分かる、ネコタの具体的な行動が書かれている一文を、ここよりあとの本文中からさがし、その最初の六字を書きぬいて答えなさい。


■ (2) ———線②『それじゃぼくといっしょに牛の世話をしなよ。』思いきって大地はいつてみる」とありますが、大地が「ぼくといっしょに牛の世話をしなよ」とネコタに言ったのはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分のしなければならぬ仕事が楽になるから。
- イ 家に一人でいがちなネコタを元気づけたかったから。
- ウ ネコタに、ネコタの父の仕事を理解させたかったから。
- エ 自分のできることをネコタにじまんしたかったから。
- オ ネコタともっと親しくなりたかったから。


■ (3) ———線③「教室であれほど自信にみなぎっていたネコタ」とありますが、ネコタが教室で「自信にみなぎっていた」という様子が書かれている一文を本文中からさがし、その最初の六字を書きぬいて答えなさい。


■ (4) ———線④「これで新しい転校生と友達になれることが決まったのだ」とありますが、この時の大地の気持ちを表している二字のことばを、本文中から書きぬいて答えなさい。


■ (5) 本文中で、大地はネコタのどんな点を不満に感じていますか。それを二つ、それぞれ「  点」という形で、十字以内で書いて答えなさい。(句読点も字数に数えます)

点
。

点
。

單元 1 の新出漢字

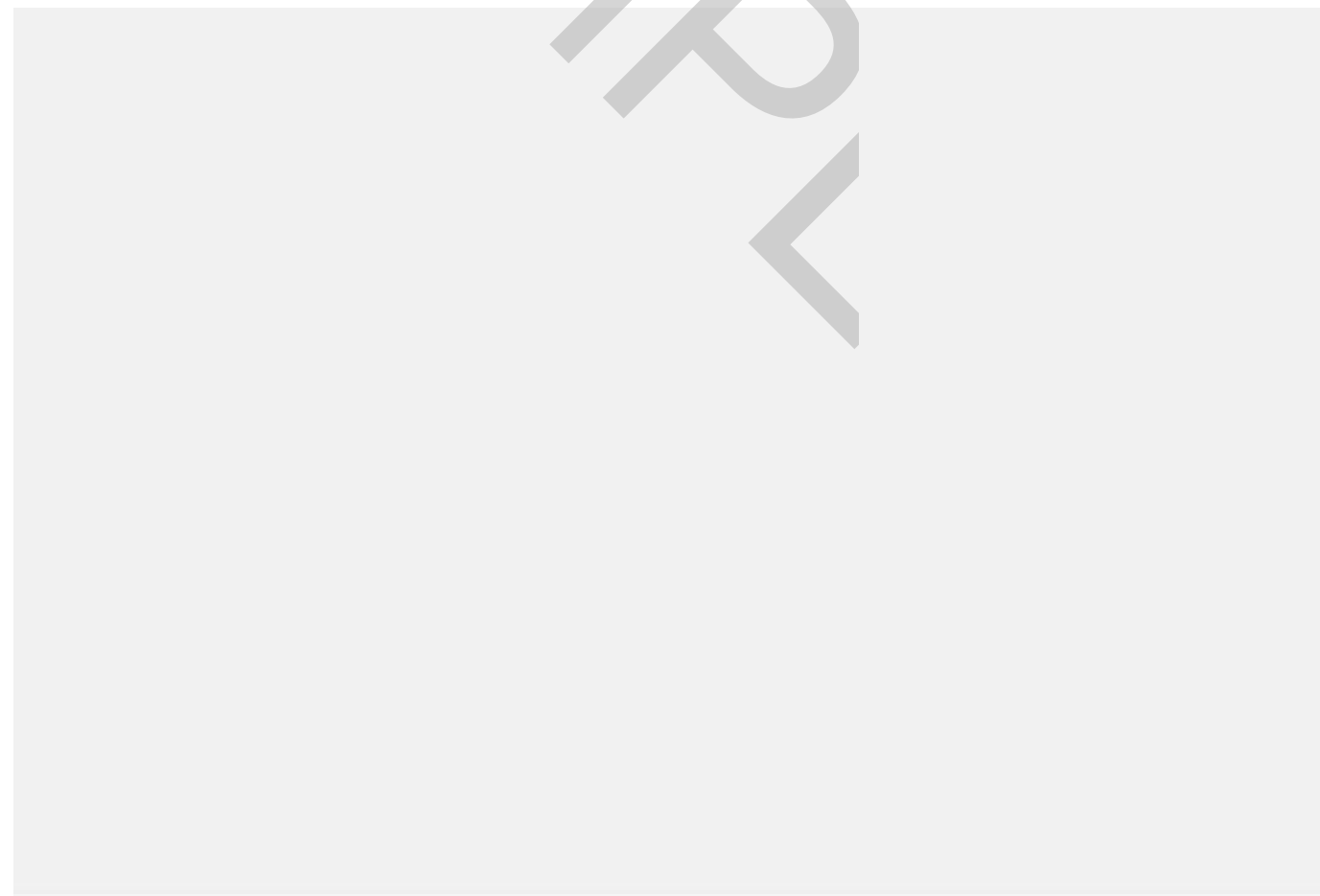
〈6ページ〉

寄 キ／よ(る・せる)

解 カイ／ゲ／  
と(く・かす・ける)

例題

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈椋鳩十「森の王者」より〉

□ (1) — 線① 「いく日もいく日も考えました」とありますが、このときジョージが考えていたこととして、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア どうやったたら、ウルフがきけんではないと、村の人たちにかつてもらえるか。
- イ どうやったたら、ウルフを、あまり苦しませずに殺すことができるか。
- ウ どうやったたら、ウルフが安全な場所でのびるることができるか。
- エ どうやったたら、ウルフが自分のところにもどってこないようにできるか。

考え方

物語を読むときは、人物、特に主人公がどんなことを考えているかを考えていくことで、話の流れもスムーズに理解できるようになります。ここでは、すぐあとにジョージの考えたことが「こう考えました」と、カギカッコでしめされているので、これを手がかりに、ウルフを生きのびさせる方法を真ねんに考えているのだということを理解しましょう。いつもこのように考えたことがせりふになっているとはかぎりません。このほかに、「ウルフの頭をじっとむねにだきしめながら」というような、動作や様子に注目することも大切です。

□ (2) — 線② 「ウルフ、いくのだ」と、つえをふりあげたときのジョージの気持ちを本文中から十六字で見つけ、書きぬいて答えなさい。


考え方

人物のせりふは、「これを声に出して読むとしたら、どんな感じで読むのがいいか」と想像してみましよう。この場合もそうです。ことばや行動とはまったくきやくの気持ちがこめられていることもあるものです。

□ (3)

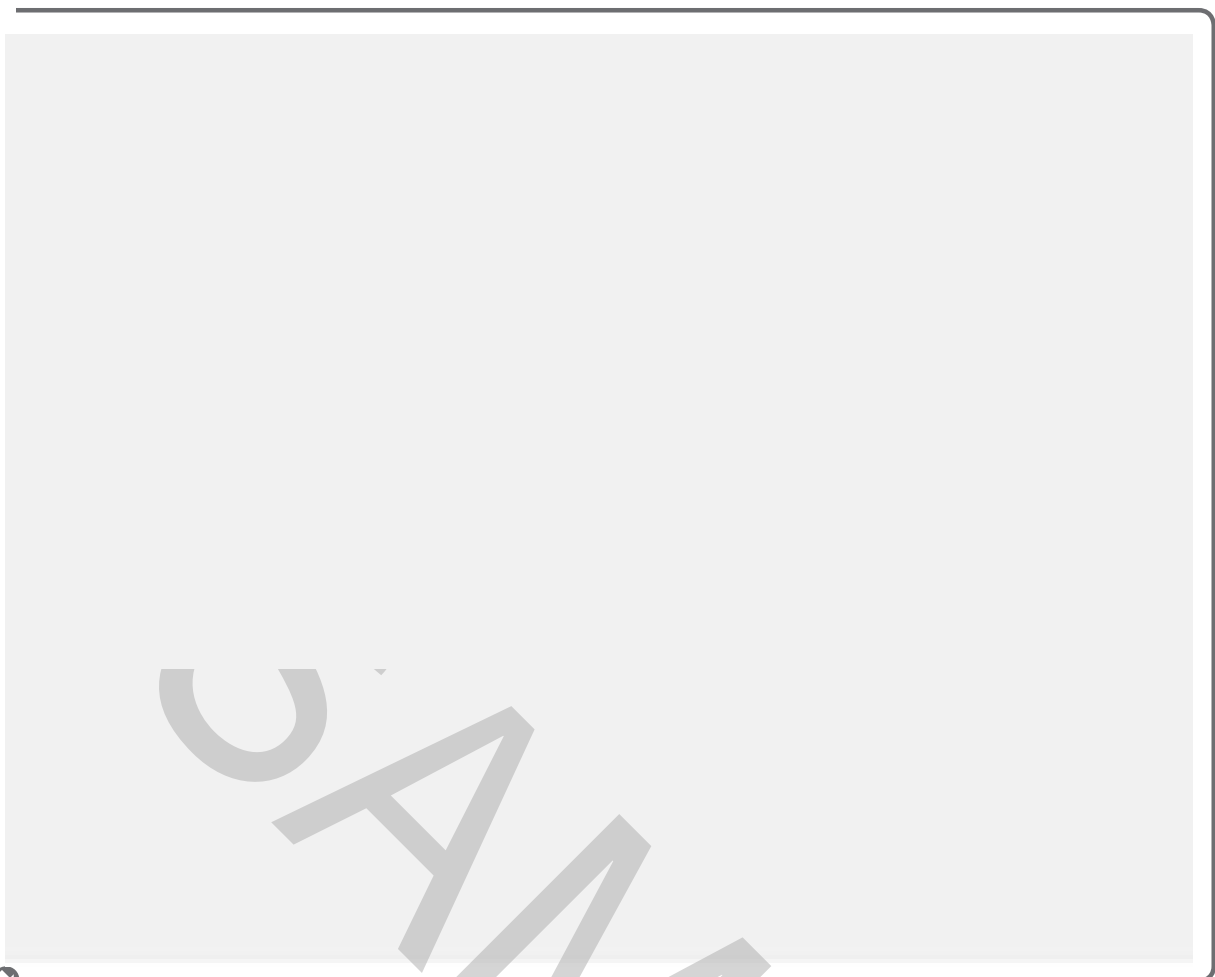
- 線③ 「おお、こら、ウルフ」と言ったときのジョージの気持ちとして、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア ウルフがいとおしくてたまらない気持ち。
  - イ ウルフが主人をだましたことにおこる気持ち。
  - ウ ウルフがもどってきたことを残念がる気持ち。
  - エ ウルフの頭のよさに、感心する気持ち。

考え方

人物の気持ちは、一人を見ているだけではわからないこともあります。ウルフの、ジョージを信頼しきっている様子を読み取り、そこから、そんなウルフをいとらしく思うジョージの気持ちを想像してみましよう。



● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈かどのえいこ〉  
角野栄子「魔女の宅急便その2」より

□ (1) 男の子は、キキとジジのことを、なんだと思っていますか。本文中から、四字で書きぬいて答えなさい。


□ (2) — 線①「女の子はぎくつと体をこわばらせました」とありますが、どうしてこわばらせたのですか。最もふさわしい理由を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 男の子がつかまえたこうもりが、自分のすぐ近くにいたから。
- イ なにもいらないと思っていたところに、キキたちがいたから。
- ウ 町で評判になっている魔女が、こわかったから。
- エ 男の子が、高い木の上のほうに登っていたから。

--

□ (3) — 線②「あっ、おねがい、じつとして」とありますが、キキがこうさげんだときの気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア これ以上大きくゆらすと、男の子が木から落ちそうで心配だ。
- イ 自分たちがつかまっている枝が、ゆらすとおれそうでこまる。
- ウ 木がゆれると、目がまわりそうで、いやだ。
- エ 男の子に、自分がだれかを話そうとしているのだから、ちゃんと聞いてもらいたい。

□ (4) — 線③「土やほこりでよごれているキキを見て、へんな顔をしました」とありますが、女の子は、なぜそんな顔をしたのですか。

次の文の□に入るふさわしいことばを、十字以内で書いて答えなさい。(読点も字数に数えます)

〈女の子は、キキが□と、町の人から聞いていたから。〉


--

□ (5) この場面の、男の子・女の子・キキの気持ちのうつり変わりの説明として最もふさわしいものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア その場にいるそれぞれの人の様子と、できごとのなりゆきを、はらはらしながら見守っている。
- イ 自分の行動がうまくいって大喜びよろこびをしているが、まわりにみとめてもらえずにやや不満に思っている。
- ウ 急にきけんな目にあって、びっくりしていたが、様子がわかるにつれて、少しはらをたてはじめている。

男の子	□
女の子	□
キキ	□

単元2の  
新出漢字

〈10ページ〉

- |   |       |
|---|-------|
| 枝 | シ／えだ  |
| 評 | ヒョウ   |
| 判 | ハン／バン |